

秦野市生物多様性地域連携保全活動計画（案）に対する
パブリック・コメント手続きの実施結果について

1 意見募集期間

- (1) 議会 平成26年1月16日（木）～2月28日（金）
- (2) 市民 平成26年1月16日（木）～2月14日（金）

2 意見募集の周知方法

広報はだの2月1日号（パブコメ実施中）及び市ホームページ

3 計画案の公表の方法

- (1) ホームページへの掲載
- (2) 公民館及び駅連絡所における閲覧
- (3) 本庁舎行政情報閲覧コーナーにおける閲覧
- (4) 森林づくり課における閲覧

4 意見提出の方法

郵送、FAX、電子メール及び持参の方法による

5 提出された意見の内容及びその取扱い等

- (1) 件数等の内訳及び対応状況

内容分類	件数	意見への対応区分（※）			
		A	B	C	D
①全体に関する事	5		2		3
②第1章に関する事	4		2	2	
③第2章に関する事	4	1	2	1	
④第3章に関する事	10	4	4	2	
⑤資料編に関する事	2	1	1		
計	25	6	11	5	3

A：意見等の趣旨等を指針に反映したもの

B：意見等の趣旨等は既に指針に反映されていると考えるもの

C：意見等の趣旨等を指針に反映することは困難だが、参考とさせていただくもの

D：内容に関する質問・感想等その他のもの

秦野市生物多様性地域連携保全活動計画(案)に寄せられた市民からのご意見等

通番	ご意見等の内容について		改定案への反映状況	
	項目	ご意見等	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
1	全体	計画(案)には、自然的環境への負荷の軽減について触れられていない。生物多様性の危機の項目として、身近で起きている現実的課題、環境負荷・汚染の軽減への基本的な指針が反映されていないので、計画に盛り込むべき。	B	第1章で秦野の環境特性や課題を記載し、それに対して様々な主体が連携して活動を行っていくことを第2章及び第3章で記載しています。
2	全体	計画を遂行する際にどのくらいの市民が主体的に参加してもらえるかが重要であり、その方策を模索する必要がある。また、計画遂行に必要な予算について、市だけでなく、企業、市民などの寄付を募ることも必要。	D	本計画では、様々な主体が連携した里地里山を活用した地域づくりを目指しており、計画を実施していくに当たり、御指摘の点にも十分留意していきます。
3	全体	計画(案)はよく書かれているが、秦野の自然が将来にわたって守られていくのか不安がある。開発計画に対して保全を図ってほしい。	D	本計画は、個別の開発案件に関しての対応を記載しているのではなく、「里地里山を積極的に取り入れたライフスタイル、地域社会の確立」を基本的な考え方として、地域づくりの観点から、様々なライフステージにおいて、様々な主体が連携して活動していくことを目指しています。本計画に基づき、市全体として里地里山を活用した地域づくりを進めていきます。
4	全体	里地里山の保全は、ボランティアによる活動だけでは困難であり、行政等もかなり関与していくことが必要。	D	本計画においても御指摘の点は課題としており、様々な主体が連携して、里地里山を活用した地域づくりを目指していきます。
5	全体	各団体のネットワークをどのように組織していくのか。 各団体の課題をどのように吸い上げ、行政として対応していくのか。 人材の確保ややりがいの存続に向けて具体的に何をやっていくのか。	B	本計画全体を通じて記載しているところですが、特に29ページに記載しているように、本計画を具体化していくために、地区ごとに様々な主体が協議を行っていく場を設定し、活動団体だけでなく、他の関係する主体等も含め地域の活動として取り組んでいくことを目指しています。
6	第1章 P1～13	市民に対して、秦野固有の生物の多様性が、どのように損なわれており、どういう危機があるのかをその具体を情報開示していくべき。市固有の一般的な現況だけでなく、地域・地区別の課題が、詳細に明記されることにより、保全活動計画がより具現化され、本市の政策課題として取り組むことができる。	B	第2章25～26ページにかけて、本計画を具体的に検討・実施していく4地区の現状と課題を記載しています。
7	第1章 P17～18	里地里山の保全再生等を担っている方々の高齢化が深刻な状況になりつつある。次世代につなげる対策は喫緊の課題であり、従来の計画、活動を総括的に顧み、実効性のある計画を策定すべき。	B	御指摘の内容は、本計画の目指しているものでもあり、本計画に基づき、具体的に進めていきたいと考えています。
8	第1章 P19	里地里山に関する市のHPに生物多様性の保全に関する情報が含まれていない。これらの情報も紹介してほしい。 外部リンクとして、「くずはの家」や「秦野ビジターセンター」なども紹介すべき。	C	御意見として受け賜わり、参考にさせていただきます。

秦野市生物多様性地域連携保全活動計画(案)に寄せられた市民からのご意見等

通番	ご意見等の内容について		改定案への反映状況	
	項目	ご意見等	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
9	第1章 P18	地域戦略の実施主体に「地域の大学との連携」を追加すべき。	C	地域戦略の記述をそのまま引用している部分なので加筆は困難ですが、地域戦略の行動計画でもある本計画においては十分考慮していきます。
10	第2章	課題としてあげられている活動者の高齢化、活動者の限定、やりがいの消失などの解決策として、団体とのマッチングするしくみを、第2章の8として追記してらどうか。	A	第3章の活動内容に加筆します。
11	第2章 P24～28	従来の「里地里山保全再生モデル事業」や「環境基本計画」「はだの一世紀の森林づくり構想」等とどのようにつながっていくのか。また他分野・他の行政領域（農政、環境、教育、文化財保護行政、街づくり景観行政、JA、近隣市町等）との連携やプログラムの道筋を図っていくべき。区域設定によっては隣町との連携をすべき。	B	第1章14～19ページにかけて、関連する計画との関係等を記載しています。また、第3章において、各取組における実施主体を記載しています。 本計画においては、本市の自然特性、里地里山に関する取組等を考慮して計画区域を秦野市全域としています。
12	第2章 P27	「里地里山を誇る」では、「心や身体の安らぎを得る精神的享受」と「生産物を得る物理的享受」に分けて記述すべき。	B	御指摘点をも踏まえつつ、可能な限り簡便に説明するために「種々の恵みを享受するとともに、その心地よさを実感し」という記載にしています。
13	第2章 P28	目標値、課題をもっと明確化して、中間点の見直しをするため、それぞれの目標値を設定すべき。（荒廃農地・山林の解消率、活動団体・ボランティアの参加状況・増減率、生物の生息分布状況等）	C	御意見として受け賜わり、参考にさせていただきます。
14	第3章 P32～40	他市の「計画」に見られるように、農林水産業振興、中山間地の振興、里地・里山の観光化、バイオマス事業、里地・里山の産業化（第6次産業化）等の施策を包括的に取り入れていくべき。	B	「基本的な考え方」や「活動内容について」において、里地里山を活用した地域づくりについて記載しています。
15	第3章 P32～40	里地・里山・里川を三位一体として、とらえていくべき。里川は里地・里山のリトマス紙と言っても過言ではなく、水系に直結する里川の保全計画は別メニューで取り組むべき。	B	里地里山の中で、谷戸の湧水や水系もとらえています。御指摘の事項も考慮していきたいと考えています。
16	第3章 P32～40	事業によっては観光関係機関との連携も必要。宿泊しながら里地里山体験ができるようなことが良いのではないかと。	B	観光協会等との連携も目指しているほか、取組項目に「田舎体験ツアー」等を掲げており、御指摘の事項を進めたいと考えています。

秦野市生物多様性地域連携保全活動計画(案)に寄せられた市民からのご意見等

通番	ご意見等の内容について		改定案への反映状況	
	項目	ご意見等	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
17	第3章 P32～40	「里山を誇る」で記載されているカラナデシコは、「キーストン種」ではなく「象徴種」が適当。人為的な移動を含めた復元には、生物多様性の観点から注意が必要。カラナデシコに加えて、4つの地域で現存する象徴種や希少種なども取り入れ、それらを保全する活動につなげていくべき。	A	御意見を踏まえ直します。
18	第3章 P32	活動内容の取組項目「里山林、水源林の保全」、「谷戸の保全」の実施主体に「活動団体」を加筆すべき。	A	加筆します。
19	第3章 P32～38	「1 市全体の活動」の(1)～(4)の事業について、体を動かして作業を行ったり、学習実習などを行う項目には実施主体として大学も加えるべき。 里山コリドーには観光協会を加えるべき。里地里山の農道・林道と大山道、矢倉沢往還などを組み合わせた歴史解説を加えた古道マップもよいのではないか。	A	御意見を踏まえ直します。
20	第3章 P32～33	「散策マップの作成」について、市外外部者を含む主体による秦野における観光資源、産物の適切な市場調査が必要。それを基に誰が散策マップを作成するのか、どんな物産を地域の魅力として売り出すのが重要。	C	御意見として受け賜わり、参考にさせていただきます。
21	第3章 P33～34	「クヌギ・コナラを積極的に植樹し」とあるが、樹木には相応の多様性が必要。	B	本計画では、里地里山の生物多様性を保全し、活用していくことを目的としており、御指摘の点にも十分配慮していきます。
22	第3章 P34	大学や企業などの協力により、サシバ、フクロウ、キジ、ヒバリ、ノウサギ等の捕獲的大型の動物についても、生物多様性の現状と変化を把握していくために調査・分析を行うべき。	C	36ページに「地域の生物多様性の現状と変化を調査・分析」を記載しており、御指摘の点についても留意していきます。
23	第3章 P39～40	「2 地区ごとの活動」の「渋沢丘陵地区」に「ヤマユリの保全・種まき」を追加。	A	加筆します。
24	資料編 P41	活動団体の一覧については、4つの活動目標（里地里山を使う、里地里山を誇る、里地里山で学び・楽しむ、みんなで里地里山）別に分け直した方が団体の目的が明確になる。	B	表が細かいため見にくいですが、「活動の概要」にどの活動目標に区分されるかを記載しています。
25	資料編 P66～70	図6～9の見方と特徴などを説明した方が分かりやすい。 表2、3の黒丸、白丸、二重丸、一などの説明がないと意味が分からない。	A	図6～9については、52～57ページに結果の説明、考察等が記載されています。 表2、3については、説明を加えます。

- A: 意見等の趣旨等を計画に反映するもの
 B: 意見等の趣旨等は既に計画に反映されていると考えるもの
 C: 意見等の趣旨等を計画に反映することは困難だが、参考とさせていただきますもの
 D: 内容に関する質問・感想等その他のもの